2018,4,2　**歴史探訪・ミツバツツジ咲く清水山城跡ハイキングと熊野本古墳群の準備に行きました**

鎌倉時代の承久の乱以降、佐々木氏が近江の守護職となり、その一族（大原・六角・京極・高島）は、近江各地を支配するようになりました。

「吾妻鑑」によりますと、嘉禎元年（1235 年）に佐々木高信が、田中郷の地頭となりました。鎌倉時代から戦国時代末にかけて、高島郡では、その一族である越中氏・能登氏・朽木氏・永田氏・横山氏・田中氏・山崎氏が活躍しました。

のちに西佐々木氏と呼ばれるこの一族は、当時の古文書に「西佐々木」「西佐々木七人」「高島河上七人」「七頭」として名前が見られます。また、江戸時代に書かれた地誌「近江輿地志略」は、「清水山」にあった城跡を、西佐々木一族の惣領家（本家）である佐々木越中氏の城と記しています。

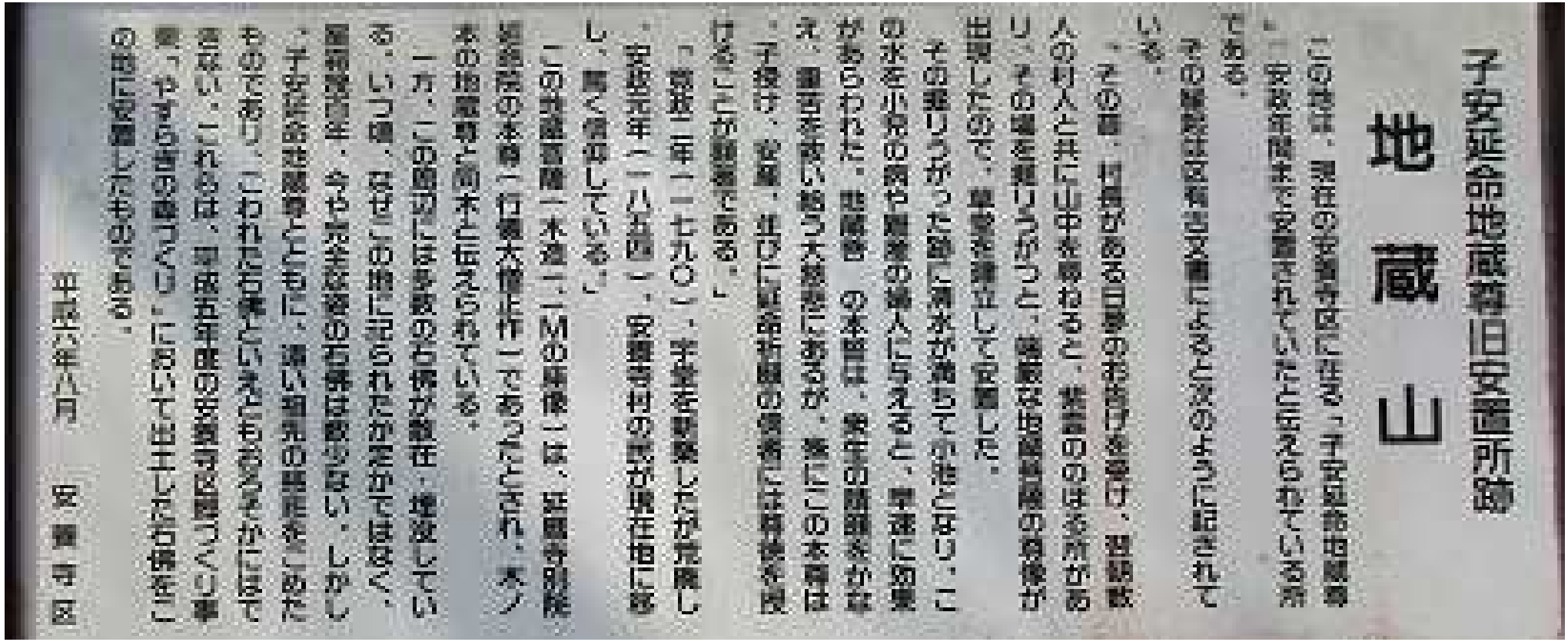
清水山城は、戦国時代のお城を見るうえで大切な遺構として、清水山城遺跡・清水山遺跡（清水寺・屋敷地）・本堂谷遺跡（大宝寺・屋敷地）の範囲が、清水山城館跡として平成 16 年 2 月 27 日に国史跡に指定されました。当日は清水山城跡の遺構や城下をゆっくり散策します。

また、宅造道路区域一帯には、弥生時代の高地性集落である熊野本遺跡と三世紀には築造が開始された高島市最古の古墳群の一つである、38 期の古墳で構成される熊野本古墳群が存在します。熊野本弥生墳丘墓・熊野本 6 号墳（前方後方墳）を散策します。　この時期、お花が多く圧巻。自然観察もたっぷり楽しみます。

◆歴史

←この段丘面には、」「御屋敷」や「犬馬場」という地名が残っている。この一帯」では、土を盛った土手・土塁や堀を現在も見ることができる

犬の馬場：珍しい地名で、この周辺では、近江守護六角氏の観音寺城や越前一条谷の朝倉氏館にしか残っていません。鎌倉時代から室町時代にかけて、武士が馬の上から矢（鏑矢：ささらない矢）を射る「流鏑馬」の練習をする「犬追物」という行事があった。犬追物の行事をしたところが「犬馬場」である。



子安延命地蔵菩薩安置所跡

地蔵山

この地は、現在の安養寺区に住む「子安延命地蔵尊」が安政年間まで安置されていたと伝えられている所である。

その縁起は区報当区誌によると次のように記されている。

「その昔、村長がある日夢のお告げを受け、翌朝数人の村人と共に山中を尋ねると、紫雲ののぼる所があり、その場を探りうがつと、幽厳な地蔵菩薩の尊像が出現したので、草堂を建立して安置した。

その探りうがった跡に清水が満ちて小池となり、この水を小児の病や難産の婦人に与えると、早速に効果があらわれた。地蔵尊の本尊は、衆生の願望をかなえ、福徳を授ける大慈悲にあるが、殊にこの本尊は、子授け、安産、並びに諸難病の信者には特徴を授けることが顕著である。」

「寛政二年（一七九〇）、堂宇を再興したが荒廃し、安政元年（一八五四）、安養寺村の堂が現在地に移し、厚く信仰している。」

「この地蔵菩薩一木造（一Mの尊像）は、延命寺別院延命院の本尊（仏像大僧正作）であったとされ、本尊の地蔵尊と同木と伝えられている。

一方、この周辺には多数の石仏が散在・埋没している。いつ頃、なぜこの地に記られたかは定かではなく、墓標建立年、今や完全欠落の石碑は数少ない。しかし、子安延命地蔵尊とともに、清い湧泉の霊能をこめたものであり、「これれた石像といえともそのそ小にはて忘れない。これのは、平成五年度の安養寺区誌づくり事業「やすら寺の誌づくり」において出土した石仏をこの地に安置したものである。」

平成六年八月　安養寺区

◆メモ①　清水山城の位置：饗庭野のふもとには、西近江路が南北にのびていて、南方には湖西最大の大河である安曇川が流れています。清水山城は、安曇川～琵琶湖の水運と陸路が交わる「陸路・湖路」の「要」に位置していた。

②　清水山の名称：城のふもとにある平井集落に残る古文書には、「清水山」の名前が記されていることから、当時、饗庭野は、「清水山」と「饗庭野」に分かれていたことがわかってきた。また。現在のところ、「清水山」の名前は、文禄４年（１５９５）の古文書に初めて見えます。この古文書には、豊臣氏が支配するため、地元の領主や有力者が住んでいた土地、交通や流通など・・・の土地が記されていた。（大溝城山・清水山の名前がみられる））

③

このあたりの地名は、地蔵谷と呼ばれています。石仏には、阿弥陀如来と呼ばれている仏様が彫られている。阿弥陀如来は、来世に西方浄土に導いてくださるは仏さま。

◆西佐々木一族の地位と性格

清水山城の城主と推測されている佐々木越中氏は、ほかの西佐々木氏の一族とともに、鎌倉時代には「在京人（ざいきょうにん）」、室町時代には「奉公衆（ほうこうしゅう）または外様衆（とざましゅう）」と呼ばれる将軍の直轄軍ともいえる身分にあり、幕府と強いつながりを持っていた。

一族は、１６世紀の初めに北近江にあった十二ケ所の関の関守として、その名が見られることから、米づくりなどができる平野の支配だけでなく、陸路や水運などの交通路の支配も一族の収入源になっていたことがうかがえる。

１６世紀になると越中氏、田中氏、朽木氏が一族のなかでも力をもつようになつた。１６世紀の中頃の天文年間になると越中氏と田中氏は近江の守護の六角氏に、朽木氏は足利将軍に味方するようになった。そして、観音寺騒動によって六角氏が勢力を弱める永禄年間（１５８８～７０）になると、湖北の浅井氏と同盟を結び元亀元年（１５７０）からの織田信長の近江侵攻をむかえることになった。

◆清水山城と主郭の発掘調査

清水山城は、主郭を中心として南東・南西・北西の三方に伸びる尾根上に曲輪が並ぶ山城。主郭の東面と北西にのびる尾根の上に畝状空堀群が作られている。平成８年の主郭の発掘調査では、たくさんの土器とともに６間×５間の大規模な礎石建物跡が見つかった。出土した土器は、１５５０～１５７０年ごろの時期に集中してる。

「信長公記（しんちょうこうき）には、「織田信長は元気４年７月に高島に大船で出陣し、陸から木戸・田中両城を攻め、海からは大船を着け、馬廻（うままわり）を従えて攻めた。木戸・田中両城は、降参し明け渡した」と記されている。清水山城の主郭から出土した土器の最も新しいものは、この信長の高島郡攻略の時期とほぼ一致した。

※主郭：中世の山城の中心地

※曲輪：お城の中で建物が建てられたり、人が集まったりすることができる造成された平なスペース。

※畝状空堀群：山の等高線に対して直交して何本も掘られた（竪）堀とその土をもった土塁。

※礎石建物：石の上に柱をすえる建築様式。

※馬廻：常に主人の周囲で護衛する騎馬の武士。

大手道

大手道の推定ルートは、西近江路沿いの武家屋敷のある平井集落から西上し、段丘上の「犬ノ馬場」の北側から、「中井辻子」の地名が残る範囲を通り、現在地に到着します。

この周辺は、地元で「ショウモン（正門）ヤマ」と呼ばれています。ここから斜面を斜めにのぼり、「ダイモン（大門）」と呼ばれる地点で曲がり、西屋敷にいたります。

その他の城下集落から清水山城に向かうルートとして、安養寺の集落から「犬ノ馬場」、「中井辻子」のルートは、籠城した時に安養寺と川原市の農家が兵糧米を運んだ道と伝えられています。また、今市の善林寺から清水山城に向かう「天主道（テンシュミチ）」と呼ばれる道もあったと伝えられています。

高島市教育委員会

嘉禎元年（1235）に佐々木信綱の二男 高信が高島郡田中郷の地頭となり、その一族は、鎌倉時代から戦国時代にかけて、高島地域で活躍しました。清水山城館跡は、西佐々木七人・七佐々木・高島河上七頭などと呼ばれた西佐々木一族の惣領家　佐々木越中氏の居城です。

清水山城は、地元で「佐々木城」や「城のテンシ・テンシン」と呼ばれ、標高約 210mの主郭からは、室町時代に佐々木越中氏の領地であった高島本荘・新荘を含めた安曇川流域一帯が望めます。その規模や眺望から、佐々木越中氏だけでなく西佐々木一族の詰城として、16 世紀後半に対織田信長戦への緊張が高まる中で改修された可能性が指摘されています。

特に、山城には近江ではめずらしい畝状空堀群が築かれていて、信長との戦いに備えて、朝倉氏によって改修された可能性が推測されています。

また、山城の南方の山腹に広がる清水山遺跡（西屋敷・東屋敷）は、遺構の特徴などから、かつてこの地にあった天台寺院　清水寺の坊院跡を、一族や家臣の屋敷として利用したと考えられています。西屋敷の中央には、南北に大手道が通り、山城の南東尾根曲輪群に続きます。

高島市教育委員会

※この遺跡は全国的に見て大変貴重な遺跡として、国の史跡に指定されています。
みなさん未来に向けて大切に守りましょう。
なお、現状を変更する場合は、許可が必要です。
詳しいことは、高島市教育委員会までお問い合わせください。

西屋敷

西屋敷は、清水山城の南側の山腹に位置しています。一帯には「加賀殿」の地名が残り、中央には「大手」の地名とともに、大手道がまっすぐにのびていて、山城南東尾根の曲輪群に接続します。

大手道は「ダイモン（大門）」と呼ばれる地点で折れ曲がり、急な斜面を斜めに下っていきます。

この大手道に面して、井戸を備えた方形の曲輪が配置されています。また、大手道から分かれる小路もあり、大手道や小路に面して土塁を設けています。

一帯には、かつて天台寺院の清水寺があったとされ、その存在がこれらの遺構の特徴からもうかがえます。

また、南西端には大規模な土塁と堀が設けられています。清水山城と屋敷を防御する施設、もしくは清水寺の結界としての性格が考えられます。

西屋敷の曲輪の発掘調査によって、規模や構造は不明ですが、16世紀前半代の土器とともに、礎石建物跡が見つかっています。

高島市教育委員会

この遺跡は全国的に見て大変貴重な遺跡として、国の史跡に指定されています。
みなさん未来に向けて大切に守りましょう。
なお、現状を変更する場合は、許可が必要とされます。
詳しいことは、高島市教育委員会までお問い合わせください。

東屋敷

東屋敷は、西屋敷と「地蔵谷」と呼ばれる谷を隔てて位置していて、「越中殿」の地名が残っています。

南東端には大規模な土塁が築かれていて、東屋敷や清水寺の結界と考えられています。

東屋敷の遺構は、地蔵谷に面した西側は、西屋敷と同様に曲輪群が規則的に並び、道路に面して土塁を築いているのに対し、中央部から東側にかけては、曲輪が不規則に並ぶことから、のちに佐々木越中氏によって改修された可能性も指摘されています。

佐々木越中氏と清水寺の関係を知る上で、興味深い資料が残っています。文安４年（1447）に佐々木越中氏の家臣（若党）であった八田氏と多胡氏が、河内宮神主とともに清水寺に狼藉をはたらき、半年間、清水寺を占拠しています。

清水山屋敷地の遺構の特徴からも、15世紀後半頃から清水寺の衰退や縮小に伴って、佐々木越中氏が清水寺の坊院跡に大きな改変は加えずに、徐々に進出し、一族や家臣の屋敷にしていったのではないかと推測されています。

高島市教育委員会

この遺跡は全国的に見て大変貴重な遺跡として、国の史跡に指定されています。
みなさん未来に向けて大切に守りましょう。
なお、現状を変更する場合は、許可が必要とされます。
詳しいことは、高島市教育委員会まで

２郭の堀切

２郭と３郭の大きな堀切（上から撮る」）

天守からの眺望

石仏

天守下の畝状空堀群

竪堀

畝上竪堀

武者隠し

畝上竪堀群

堀切